

2024年4月18日

報道各社 御中

全国農業協同組合連合会三重県本部（JA全農みえ）

## 県内トップを切って「伊勢茶」の初取引

県内3市場のトップを切って、「伊勢茶」の新茶初取引をJA全農みえ南勢茶センターで行います。

同センターの初取引は、昨年より4日遅い開催となります。今年の茶の生育は、3月に寒の戻りがあったものの、4月に入り適度な気温上昇や降雨で順調にすすんでいます。茶園の状況は霜害もなく良好で、品質のよい新茶が育っています。

初取引では、生産者（JA販売担当者）と茶商の間に仲立人<sup>なかだちにん</sup>が入り、五つ玉のそろばん片手に交渉をとりもち、話がまとまると、三者で威勢よく手を3回たたき「手締め」をします。昔から変わらない商習慣です。

美し国に新茶の香り。全国第3位の茶どころ三重での初取引のようすをぜひ取材いただきたく、下記のとおりご案内申し上げます。

記

■と き：2024年4月24日（水）11：00～ 初取引（相対取引<sup>あいたい</sup>）

■ところ：JA全農みえ 茶販売課 南勢茶センター  
多気郡大台町栃原1091  
TEL0598-85-0172

■主 催：南勢茶センター  
（茶販売課 茶専任担当課長 山口 喜己）



昨年度の初取引のようす

## <ご参考>

### 【昨年の初取引結果】

開催日	2023年4月20日
出品点数・数量	17点、160kg（煎茶）
最高価格	35,880円/kg
平均価格	9,326円/kg

### 【伊勢茶とは】

「伊勢茶」とは、三重県内で生産されたお茶のことをいい、主に「煎茶」「深蒸し煎茶」「かぶせ茶」の3種類が生産されています。

恵まれた立地条件のなかで栽培されるため生育がよく、葉肉も厚くなり芳醇でコクのある味わいが特徴です。

三重県は、栽培面積、荒茶生産量ともに、静岡県、鹿児島県に次いで全国第3位のお茶どころです。茶種別では、かぶせ茶の生産量は全国第1位で、全国シェア約64%（2022年産）と高いウエイトを占めています。

### 【三重県の風土と伊勢茶】

三重県は南北に細長い地形ですが、県内の大半は年平均気温が14～15℃と温暖で、茶の栽培に必要とされる年間降雨量1,500mm以上の地域では、ほとんどが茶の生産適地となっています。

本県での摘採時期は、地域による差はあるものの、おおむね一番茶（新茶）は4月下旬から5月中旬、二番茶は6月下旬から7月上旬です。これは全国的にみると、遅場の産地となります。

県内の農場では、食の安全や環境保全などに取り組む農場に与えられる認証である、国際水準GAP認証を数多く取得しており、地域全体で安全・安心な緑茶づくりに取り組んでいます。

### 【南勢地域の伊勢茶】

J A全農みえ南勢茶センターは、県内3市場（四日市市、鈴鹿市、大台町）のうち唯一、南勢地域にある茶市場です。南勢地域では、谷あいの傾斜地や川沿いの平地で良質茶栽培が行われています。

主に大台町、度会町で「煎茶」が、松阪市（旧飯南町、旧飯高町）で「深蒸し煎茶」が生産されています。